

耕ニ通スル處ノ區畫ニ改良スル為メ此大工事ヲ為サ
ントスル者ハ實地ヲ檢査シ工費ノ多寡ニヨリ五箇
年乃至七箇年間ハ現地價ニ据置其満期ノ翌年ヨリ
増租スルヲニ致スルハ人民モ争フテ之ヲ實行スル
ニ至ルヘシト信シ候間畑田成等ニ於テモ其費用ノ
著シク夥多ナル者ハ年期ヲ定メテ畑租ニ据置等子
葉縣へ特許ノ例ニ倣ヒ特別年期間地價据置ノ儀許
可相成リタシト同出テタルニ本月十七日大藏省ヨ
リ伺ノ趣五箇年以内其實況ニ從ヒ現地價ニ据置ノ
儀特別ヲ以テ聽許ス但處分濟ノ上ハ其段別年期共
時々届出ヘシト指令セリ二十年十二月二十三日

名甲六号

鹿兒島縣下伊佐郡外二郡分
割ノ件

鹿兒島縣下伊佐郡外二郡分割之
儀別紙具狀ニ對シ朱書之通指令セシ
ニヨリ左案ヲ以テ省令ヲ發セシ
トス右閣議ヲ請フ
明治廿年三月四日

内務大臣伯爵山縣有朋

省令案

第 号

明治十一年正月第拾七号布告郡區

町村編制法ニ依リ鹿兒島縣下薩

摩國伊佐郡同縣下大隅國大隅郡

贈吹郡、三郡ヲ左之通分割ス

南伊佐郡 北伊佐郡

南大隅郡 北大隅郡

東贈吹郡 西贈吹郡

年月日

内務大臣

乾沙一一八号

郡衙増設之儀ニ付上申

本縣ノ儀當初郡制施行ノ際丁丑兵乱ノ餘ヲ膺

テ民間衰弊ノ折柄專ラ民力ノ休養ヲ計リ務メ

テ地方費ノ負擔ヲ輕減スルノ目的ヨリ隨テ郡

衙配置ノ如キモ當時ニ於テ止ムヲ得ルマデニ

其數ヲ減少セシヨリ之レカ區域ニ於テ實際

大ニ過ルノ憾ナキニアラサリシ然ルモ行政ノ

事務ハ時々ノ閑運ニ伴シ日ニ月ニ繁劇ヲ加フ

ル耳ナラズ綴密精細ヲ要スルニ至リシヨリ官

民ノ間ニ於テ益々至便トセサル者アルヲ感ス

ルノ場合ニ際會ス是ニ於テ管民ニ於テモ大ニ

郡衙ノ増設ヲ希望シ建議或ハ請願スルモ數

回顧ミテ之ヲ他府縣ニ比スルニ水縣ノ如キ區
域廣濶ナル者ヲ見ミ仍之施政上將來ノ得失ト
官民ノ便否トヲ商量シ別紙天号圖面ノ通贈吟
郡ヲ別チテ東西トシ伊佐郡ヲ分チテ南北トシ
大隅郡ヲ亦南北ニ分郡シ而シテ別紙地号圖面
ノ通東贈吟郡ト南諸縣郡トヲ一區域トシテ郡
衙ヲ東贈吟郡岩川ニ置キ北伊佐郡ト菱刈郡ト
ヲ一區域トシテ郡衙ヲ北伊佐郡ノ内牛山ニ置
キ日置郡ト阿多郡トヲ一區域トシテ郡衙ヲ日
置郡伊集院ニ置キ出水郡一圖ヲ一區域トシテ
郡衙ヲ出水郡出水ニ置キ都合四郡衙ヲ増設シ
尚ホ大隅郡櫻島郡ヲ北大隅郡トナシ慶島谿山
ニ郡衙ノ所轄ニ屬シ又大隅肝屬ニ郡衙ノ現在

大隅郡出水ニアルモノヲ肝屬郡鹿座ニ移シ前
ノ郡衙ト併セテ九郡衙トナサントス然ルハ
地勢自然ノ配置ニ適シ其已畫ノ如キモ能リ普
通ノ基準ヲ得官民將來ノ處務上ニ於テ一層ノ
便益ヲ見ルニ至ラン依リテ府縣會規則第八條
ニ據リ縣會ノ意見ヲ諮問セシニ該會ニ於テモ
之ヲ賛成可決セシニ付具申ノ通達ニ即裁可相
成度北段上申候也

但御参照トシテ地圖及右郡戸口及別地租
地方稅一覽表添付仕候

慶見島縣令渡邊千秋代理

明治十九年三月二日

慶島縣大書記宮多賀義行

内務大臣伯爵山縣有朋殿

書面申出之趣同届候至二十年度より可
致施行事

明治九年四月八日 内務大臣伯爵山縣有朋

明治廿年三月十六日

内閣總理大臣

各省大臣

外務	陸軍
大藏	海軍
文部	逓信
農商務	司法
内務	高

別紙内務大臣請議廢島縣下分郡ノ件ヲ
按スルニ内務大臣ハ十八年十二月改革ノ際郡
區町村編制法第九條中 政府ノ裁可ヲ
受リヘシトアル廢ハ内務大臣之ヲ裁定スルコト

三月廿二日勅令ヲ以テ發布セラルヘキモノト
閣議決定ノ旨通知

明治二十年三月廿四日

内閣總理大臣

省令審査委員

ニ内決セラレタルニ依リ省令ヲ以テ之ヲ發布セシ
トスト雖元來郡區以上分令廢置ノ事タル
頗ル重要ナルヲ以テ別紙各照ノ如ク地方分
畫處分規程ニ於テ布告式ヲ以テ發布スルコト
ニ裁定セラレ且ツ元老院上奏ニ對シ同院ノ議
定ニ付セラレハキコトニ裁令セラレタリ故ニ本件ハ
曩キノ内決ヲ取消シ勅令ヲ以テ發布セラルベキ
モノト認定ス

内甲八

明治二十年三月廿四日

内閣總理大臣

法制局長官

各省大臣

外務省	大藏省	海軍省	文部省	逓信省
内務省	陸軍省	司法省	農商務省	鐵道省

内務大臣請議鹿兒島縣下分郡ノ件勅
令ヲ以テ發布スヘキ旨別紙ノ通閣議決
定ニ付テハ公布案左ノ如クニテ可然ト
認ム

勅令案

朕鹿兒島縣下分郡ノ件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

明治十五年四月一日

内閣總理大臣
内務大臣

勅令第 號

明治十一年^北第拾七號布告郡區
町村編制法ニ依リ鹿兒島縣下薩摩
國伊佐郡同縣下大隅國大隅郡^東
郡ノ三郡ヲ左ノ通分割ス

南伊佐郡

北伊佐郡

南大隅郡

北大隅郡

東^東糟^東於^東郡

西^西糟^西於^西郡

元老院議定

内閣委員

法制局參事官服野琢

鹿兒島縣分郡件
其院議定付不
明治三十年三月九日
内閣總理大臣

元老院議長宛

乾第五百三十九號

本月二十九日下付有之候鹿兒島縣下分郡
ノ件本院議定案

勅裁ヲ仰キ候為メ御上奏有之度候也

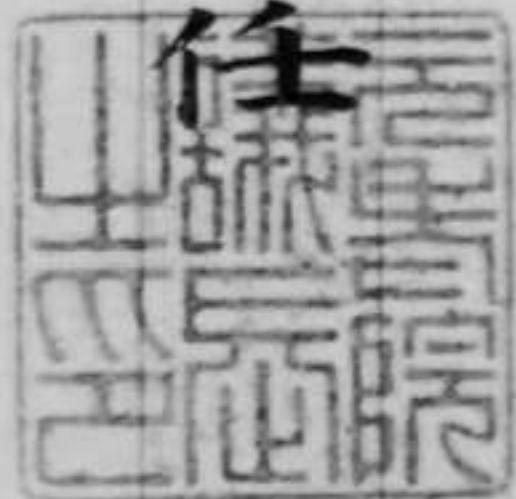
明治二十年三月三十日 元老院議長伯爵大木喬任

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

本月二十九日下付セラレシ鹿兒島縣下分郡
ノ件今三十日會議ニ於テ本案可ト決セリ仍
テ謹テ之ヲ上奏ス

明治二十年三月三十日

元老院議長從二位勲一等伯爵大木喬任



勅令第七号

明治十一年七月第七号布告郡區町村編制法ニ依リ鹿兒島縣下薩摩國

伊佐郡同縣下大隅國大隅郡嶺南郡ノ三郡ヲ左ノ通分割ス

南伊佐郡 北伊佐郡

南大隅郡 北大隅郡

東嶺南郡 西嶺南郡

元老院

内甲八号

明治二十年三月三十日

内閣總理大臣

法制局長官

別紙元老院上奏鹿兒島縣下分郡ノ件ハ
全院議定ノ通裁可セラレ可然ト信認ス

各照

地方分畫處分規程

明治三十二年十月八日裁定

一 道府縣郡區ノ廢置分合及名稱變更ノ事

右太政官ニ於テ裁議一般ニ布告ス

一 道府縣管轄地郡區境界ノ組替ノ事

甲府縣ノ一郡

又ハ數郡ヲ割キ乙府縣ニ入レ兩郡區ノ一村又ハ數村ヲ割キ丁郡區ニ入ルノ類ハ組替ノ部ニ屬ス

右太政官ノ裁議ヲ經テ内務卿ヨリ其管轄廳ニ達シ

布達ヲ要セス

一 町村ノ分合廢置組合及名稱變更ノ事

右内務卿之ヲ裁決シ布達ヲ要セス

郡區町村編制法

十一年才十七号布告

第三條

郡ノ區域廣潤ニ過キ施政ニ不便ナルモノハ

一郡ヲ畫シテ數郡トナス 東西南北上下
其郡ト云々如シ

第四條 三府五港其他人民輻湊ノ地ハ別ニ一區トシテ
其廣濶ナルモノハ區分シテ數區トナス

第九條 第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要
スルトキハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ政府
ノ裁可ヲ受クヘシ

但町村區域名稱ノ變更ハ内務卿ノ認可ヲ受
ク可シ

元老院ニ奏

別府地方ノ分合廢置等ノ事項ニ本院ノ議定ニ付セ
ラレ度旨趣書 奉裁ヲ仰キ貴院ノ御上奏有之度
也

裁令 十一年七月十三日

上奏ノ議道國府縣郡區ノ分合廢置及名稱ノ
變更ニ其院ノ議定ニ付セラルヘキ事